

6月号 ごあいさつ

With コロナ時代 - 渋沢栄一に学ぶ Vol.2 -

「論語と算盤」- 対局にあるものを両立させる！！

株式会社 山西 あすなろ会顧問
代表取締役社長 西 垣 洋 一

今月は、「対局に位置する価値観に折り合いをつけ、対局にあるものを両立させる」、日本資本主義の父と言われる渋沢栄一の思考・考え方に私なりに迫ってみました。

現在の社会や経済、ビジネスは、その枠組み自体が、根本的な矛盾をはらみ、又ビジネスの世界と一般社会とでもモラルが異なる場合があります。例えばイノベーションを起こすことで一人勝ちをすることはビジネスの世界では成功譚と称賛されますが、一般社会では、他社から何かを奪ったり、苦しめたりする行為は、褒められたものではありません。世の中には厳然と異なる価値観が混在します。渋沢は、このような矛盾を超えるために、「論語」と「算盤」のそれぞれの長所を巧みに組み合わせ、時に「論語」を大胆に読み換えて、両者の調和を図りました。

「論語」を大胆に読み換える

「論語と算盤」は、「論語」と「算盤」の長所と短所を下記の如く見抜いた上で、バランスを保つ教えです。孔子が言う道徳は、「商業」道徳ではなく、渋沢は、「論語」を大胆に読み換えた商業道徳版として捉えました。

「論語」の長所と短所

「論語」について「おのれを修めて、人と交わるための日常の教えが説いてある」「もっとも欠点の少ない教訓である」と評しています。「論語」には、宗教やその教義と違い奇蹟（倫理や現実を超越した論理的に説明できない出来事）がないからこそ日本人の道徳基盤としてふさわしいと考え、根本は普遍的であるものの、時代遅れとなった部分もあると捉えました。

「算盤」の長所と短所

ビジネスや経済では「経済合理性」が重視され、効率的に稼ぐこと、投資に見合ったリターンがあることを良しとすることで競争が生まれ経済が発展します。只、それ故「社会に必要なものでも儲からないと切捨て」「ビジネスや経済に貢献できない人は切捨て」といった風潮を生み、結果として格差の拡大が放置され、弱者の切捨てが広がります。

陰陽と太極図、書経 - 「九徳（人間形成の九つの実践）」

「対局にあるものを両立させる」という考え方は、その淵源をたどると中国古典の伝統的な思考法「陰陽」に行き当たります。陰陽では、世界は陰と陽という対立する要素のバランスによって成り立つと考え、象徴は、下記の円の中に白と黒の勾玉のような形が組み合わされた「太極図」です。又、四書五経の一つ「書経」は、「九徳」（指導者としての九つの徳）が記されています。

【太極図】



【書経 - 九徳の教え】

- 一、寛にして栗・・・寛容でありながら、厳しい一面がある。
- 一、柔にして立・・・柔和でありながら、一本芯が通っている。
- 一、愿にして恭・・・慎重でありながら、対応が機敏である。
- 一、乱にして敬・・・有能でありながら、人を見下さない。
- 一、擾にして毅・・・従順でありながら、意志が強い。
- 一、直にして温・・・筋を通しながら、心は温かい。
- 一、簡にして廉・・・大まかでありながら原則は曲げない。
- 一、剛にして塞・・・決断力に富みながら、思慮深い。
- 一、彊にして義・・・行動力がありながら、正道を踏み外さない。

木材 住宅業界を取巻く現在のコロナ不況下での資材価格の高騰、資材不足の状況も、経済原則と背反する大きな矛盾をはらんでいます。この面でも渋沢が実践した「対局に位置する価値観に折り合いをつけ、対局にあるものを両立させる」視点を持って対応することが大切になります。

2021年6月吉日

渋沢栄一の名言・格言

人生観

- ・ 未来を考えるには、過ぎ去った過去を見るのがよい。
- ・ 私は天に対しても、神に対しても自己に幸福が訪れるようにと祈ったことはない。ただ自己の本分を尽くす上に不足がないか否かについて自省するのである。
- ・ 私はいわゆる「王道」のようなものは千年も変わらない人間の道であると信じている。
- ・ 物事は順を追って行くが良い。決して焦ってはならない。
- ・ 何もせずに暮らすは一つの罪悪である。

働くとは何か

- ・ 汽船を動かすには、石炭、石油などの燃料がなくてはならない。商業もしくは事業の経営には、智者および道徳がなくてはならない。
- ・ 「貧乏ひまなし」を理想とせず「稼ぐに追いつく貧乏なし」の意気込みで日常の仕事に当たることを心がけるとよい。
- ・ 大いに働くこともある代わりに、大いに遊んだりすることがなくてはならない。
- ・ 会社の長として立つ者は、その会社を本当に自分のものであると思わなければならない。また、ある場合にはまったく他人のものだと思わなければならない。
- ・ そもそもひとつの物を行き、ひとつの物に接するにも、全身の精神を傾け、取るに足りない小さなことであっても、その場しのぎにしてはならない。
- ・ 不平というものは人を驕りたかぶらせ、怠け心を生じさせ、恨み嘆かせ愚痴をこぼさせるのである。
- ・ 世の中に立つ者はつねに勇気が必要になり、とくに実業界に携わる者にとっては非常に必要性が高い。勇気が足りない者は、処世上の飢餓者に等しいものである。

成功と失敗

- ・ 要するに現代の人は、ただ成功や失敗ということを眼中に入れて、それよりもっと大切な天と地の間の道理を見ていない。人としての務めを忘れている
- ・ 事にあたって一度こう決定するまでには深思熟慮を巡らし研究考察もするが、決定した以上は決して心を迷わすことはない。一旦決めれば必ず慢心して休むことなく、それによってたとえ失敗することがあっても、これは天命であるとあきらめる。
- ・ とにかく人は誠実に努力し勉強に励んで運命を待つほうがよい。もし、それで失敗したら、自分の知力が及ばなかったためだとあきらめ、また成功したら知恵が活かされたとして、成敗にこだわらず天命に安んじればよい。

未来への提言

- ・ 公私生涯の区別をつけることは、じつに困難で、ともすると、よく世間の人々から非難される公私混同ということに陥ってしまうことになるのである。
- ・ 公益となるべきほどの私利でなければ真の私利と言わない。
- ・ すべて世の中の事は、もうこれで満足だという時は、すなわち衰える時である。
- ・ 誰でも自分より優れた人を友としようと思い、自分に匹敵する者と交際しなければ、世の中では友は一人もいなくなるだろう。
- ・ 裕福であっても顎り高ぶってはならない。貧しく身分が低くなるとしても思い悩んではならない。ただ知識を身につけ徳のある行いをするにより、本当の幸福を得るよう期すること。